

主な出来事

1. 内政・外政

- 9日、ブルンジ難民507人がルワンダから自主帰還
- 17日、国連調査委員会がブルンジの人権状況に改善が見られないと報告
- 22日、野党第一党が党員の大量逮捕を非難
- 24日、ンダイシミア大統領が国連総会で一般討論演説
- 24日、ブルンジ難民511人がルワンダから自主帰還
- 25日、ンダイシミア大統領が就任後初の記者会見
- 30日、EUがブルンジ大統領の側近2名に対する制裁を延長

2. 経済

- 29日、ブルンジとタンザニアが鉄道建設に合意

1. 内政・外政

（1）国連調査委員会がブルンジの人権状況に改善が見られないと報告（17日）（BBC）

ブルンジにおける人権に関する国連調査委員会による2019年5月から2020年5月の報告書が完成した。同委員会は同報告書において、ンダイシミア新大統領のもとで人権状況の改善について進展があるかと期待されたが、人権侵害が続いているとした。

（2）野党第一党が党員の大量逮捕を非難（22日）（BBC）

野党第一党のCNL党が、国内西部で発生している攻撃に関与しているとして同党党員が大量に逮捕されていると（現政権の措置を）非難した。CNL党首は、2週間足らずの間に100名近い党員が国内南西部で「違法な会合」を開催したとして逮捕されていると発言した。同党首は、同党や党員は反政府勢力とは関係がなく、通常の政党集会を開催していただけであると発言した。

（3）ンダイシミア大統領が国連総会で一般討論演説（24日）（BBC）

ンダイシミア大統領が国連総会にて一般討論演説（事前収録）を行った。同大統領は、一貫して多国間主義・相互利益に基づく協力関係・連帯・相互利益の重要性を強調し、ブルンジは法の支配に基づく国際秩序の構築、国連憲章を尊重する平和かつ平等な繁栄した世界の構築にフルコミットすると述べた。国内政策に関しては、2020年5－8月に実施された国政選挙を例に挙げ、ブルンジは民主主義の強化及び平和構築で進展を遂げており、残された課題は貧困削減のための開発であるとした。また、ブルンジが国連安保理の議題に上がっている点に関して、早急に議題から外すことを要請した。その他、新型コロナウイルス、難民帰還、アフリカ大陸自由貿易圏等についても言及した。

（4）ンダイシミア大統領が就任後初の記者会見（25日）（IWACU）

ンダイシミア大統領は、就任後約100日にして初めて記者会見を行った。大統領は会見で、国内各所で発生している攻撃について、国家への攻撃といえる規模のものではないと一蹴した。ルワンダとの関係については、ルワンダがブルンジの不安定化に向け、(ブルンジの)政権転覆を目論んだブルンジ人をルワンダ国内で訓練している、ルワンダはこれまで一度もブルンジに対し犯罪者の引渡しを行っていない旨述べた。EUとの関係については、ブルンジはEUが2015年の政権転覆に関与していたと見ており、関係が悪化したが、国家関係は力に基づくものではなくブルンジの門戸は開いているとした。タンザニアとの関係については、両国間にはすでに調和が保たれているとした。その他、国民に対する政府の責任(全国民の奉仕者である)、新型コロナウイルス対策等について言及した。

(5) EUがンダイシミア大統領の側近2名に対する制裁を延長(30日)(RNA)

EUが、警察関係者でンダイシミア大統領の側近にあたる2名の制裁を延長したことがわかった。国連調査委員会の報告書が発表された数日後に、欧州連合官報で発表された。2名はンディラコブチャ(Gervais NDIRAKOBUCHA)内務・自治体開発・市民保護大臣及び大統領府で要職に就くビジマナ(Godefroid BIZIMANA)氏で、ともにブルンジ北西部のチブトケ出身。

EUは2015年10月、深刻な人権侵害を含む暴力行為、暴力による制裁・扇動を行っていたとして、ンクルンジザ前大統領の親戚にあたる同2名に対して、移動制限及び資産凍結を行っていた。なお、現政権で首相を努めるブニヨニ(Alain-Guillaume BUNYONI)氏は2015年11月から米国による制裁を受けている。

2. 経済

(1) ブルンジとタンザニアが鉄道建設について合意(29日)(The East African)

タンザニアのマグフニ大統領が、タンザニア西部のウビンザとブルンジ中央部のギテガを繋ぐ狭軌鉄道の建設についてブルンジ政府と合意したと発表した。両区間にはニッケル鉱床が見つかり、同鉄道によりブルンジからのニッケル輸送を行う。ブルンジには可採埋蔵量231メガトンのニッケルがあり、両政府はニッケル精錬所の建設についても検討を行っている。

(了)